

JAPIC会長 宗岡 正二 MUNEOKA SHOJI

JAPICについて

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(Japan Project-Industry Council:JAPIC)は、1979 年に産業界の 複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的 協力と産官学の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心 と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済、環境・資源・ エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹 に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的 諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを 目指して活動して参りました。現在39業種224社の企業、地方 自治体、団体、NPO 等から構成され、年間延べ1万人の実務家 が公益的な立場から、1.プロジェクトの企画・実現、2.政府関係 機関への政策提言、3.産官学交流のためのプラットホーム 形成等活動を行っています。

講座開設趣旨

神戸大学とJAPICとの連携協定に基づき、本リレー講座を

世界は、新興国の急成長や情報通信技術の目覚しい進歩、 金融市場のボーダレス化などにより、大交流・大競争時代にシフト しています(グローバル化)。

この時代を生き抜く学生は、「人・社会・国に尽くす、更には国際 社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励み、一方でこの 講義で説く『社会基礎学〔グローバル人材に不可欠な教養〕』 を習得することが必要不可欠と考えます。

本リレー講義では、グローバル人材に不可欠な教養とは何か を探求し、全学部生を対象に、今後の大学生活で身に付ける べき知識、教養、想像力や構想力の向上をサポートします。

学生に期待すること

本リレー講義全体のキーワードである、「グローバル化とは何か?」、「グローバル化の中で日本は?」について理解し、大交流・大競争 時代の事実認識についての強い関心と好奇心を持って、グローバル時代にチャレンジするための備えに取り掛かることを期待します。

È	催

神戸大学 産官学連携本部

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)

サポート

神戸大学東京六甲クラブ

問い合わせ先

神戸大学研究推進部産学官連携グループ 電話番号 / 078-803-5427

E-mail:ksui-sangaku@office.kobe-u.ac.jp

JAPIC連携 産業界・官界トップリーダーによる

連続リレー講座2020

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は? 学生は何を学び、何を身につけるべきか?

神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)との連携協定に基づき、 産業界・官界のトップリーダーがオムニバス形式で講義します。 今、企業でどんな人材が求められているのか?学生に何を身につけてほしいのか? 土曜日を、貴方のキャリアアップの時間に充ててください。

社会基礎学〔グローバル人材に不可欠な教養〕

開講時期

常2クォーター 土曜日 10:40▶16:40

鶴甲第1キャンパス K棟 K202号室

科目区分

総合教養科目 (2016年度以降入学生。) 総合教養科目 (2015年度入学生。「教養原論」の単位に算入。







社会基礎学【2020年度】

※2単位取得(科目区分、卒業案件の取り扱いは、学年・学部によって異なります。)

 $6/13(\pm)$

13:20-16:40

[導入講義] 連続リレー講義の意味・意義と狙い

パネルディスカッション

第1部 グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は? 第2部 学生は何を学び、何を身につけるべきか?

JAPIC 常務理事 三浦 潔司

プロフィール・新日娥 (刊 日本製件(枠)) に入社し、主に御材の学業を担当 公野け 建築・土木 浩松 建設機械 産業機 械、地域は、東京、大阪、名古屋とそれぞれ幅広く担当。2012年からの5年間は、新日鐵子会社にて、経営を担う。趣味は、ゴ ルフ、読書、散歩に芸術鑑賞を加えるべく、勉強中。

双日(株)顧問、神戸大学特別顧問 田邉 弘幸

プロフィール:1968年日商岩井(株)入社。日商岩井・双日を通じ、専務執行役員(金属エネルギー部門長)、米州総支配人 代表取締役副社長などを歴任。2011年双日(株)顧問就任。2度に亘るニューヨーク駐在は合計9年間。1998年ハーバー ドビジネススクールAMPコース終了。三重県伊勢市出身。趣味は音楽鑑賞:室内楽・声楽を楽しむ。六甲男声合唱団団長。 日本モーツアルト協会副理事長。神戸大学経営学部卒業。★本学出身者

野村アセットマネジメント(株) CEO兼代表取締役社長 中川 順子

プロフィール:1988年野村證券(株)入社。支店、投資銀行部門、財務部門を経験し、2004年退社。2008年野村ヘルスケ ア・サポート&アドバイザリー(株) 入社、同年社長就任。2010年野村ホールディングス(株) へ異動。2011年執行役CFO. 2013年執行役員、2017年野村アセットマネジメント(株) 専務を経て、2019年CEO兼代表取締役社長就任、現在に至 る。★本学出身者

神戸大学 理事 副学長 小田 啓二

プロフィール:1956年山口県美祢市生まれ。宇部高校、大阪大学工学部・大学院修了、同大助手、神戸商船大学助教授 教授, 2003年神戸大学海事科学部教授。2009年から2013年海事科学研究科長, 2015年副学長, 2019年理事。 2007年~2008年度日本保健物理学会長、2014年から放射線審議会委員。趣味:サッカー観戦、ゴルフなど。

 $6/20(\pm)$

10:40-12:10

現代の金融システム

金融は企業や個人が経済活動を行う上で不可欠な 役割を果たしている。その一方で経済に悪影響を与 えることもあり、悪者扱いされることも多い。講義では 金融が個人の生活や企業活動にどう役立っているか について具体的にみた上で、どう活用していくことが 望ましいかを考えてみたい。

ゴールドマン・サックス証券(株) 取締役 マネージング・ディレクター

吉村 隆

-ル:1985年日本銀行入行。IMF出向、ニューヨーク事務所次長、政 策委員会室企画役を経て、2007年ゴールドマン・サックス証券㈱ コンプライフ ンス部門統括 マネージング・ディレクター、2019年現職に就任。日本創生委 員。趣味:旅行、オペラ、ゴルフ。座右の銘:天網恢恢疎にして漏らさず

13:20-14:50

東アジア大市場統合と日本

少子高齢化の影響で活力が低下していく日本は、経済 成長が著しい東南アジア各国の成長力を取り込む必要 があります。日本企業は韓国や中国の企業と東南アジ アで激しい競争を繰り広げていますが、それを手助けす るのが「ソフトパワー」といわれる、国のブランド力です。 東南アジアとの経済の共存共栄策を皆さんと考えると ともに、アジア市場でのKポップの人気などをもとに、日 本もソフトパワーを高めていく重要性を解説します。

読売新聞東京本社 不動産センター長

深沢 淳一

プロフィール:1987年読売新聞入社。経済部で経産省、財務省、外務省、内閣 府、国交省、総務省などの主要官庁や民間企業を取材。シンガポール特派員(7 ジア経済担当)、アジア総局長(バンコク駐在)として、計6年半にわたって東南ア ジアの政治・経済情勢を取材した。著書は、ASEANを巡る通商交渉の舞台裏や 経済力を分析した「ASEAN大市場統合と日本」(文眞堂、共著)。趣味は旅行

15:10-16:40

グローバルブランドの ローカライゼーション

1935年に誕生し、世界中で愛されているグローバル ブランド「キットカット」。その「キットカット」を1973年 から日本独自の方法で育ててきました。日本におけ るキットカットの歴史を紐解き、時代時代でどのよう に成長させてきたのかを、製品、消費者コミュニケー ションの観点から、「受験キャンペーン」、「期間限定 品」から高級ラインの「ショコラトリー」に至るまでの 具体例を挙げながらセッションを進めて行きます。

ネスレ日本(株) 専務執行役員/ チーフ・マーケティング・オフィサー

石橋 昌文

プロフィール:1985年、神戸大学経済学部卒業後、ネスレ日本(株)入社。営業本 部、ネスレUKの勤務を経てネスレマッキントッシュ社(現ネスレ日本コンフェクショナ リー事業部)に勤務。ネスレスイス本社での勤務を経て、2005年、マーケティング 統括部長。2009年ネスレ日本(株) 常務執行役員、2012年チーフ・マーケティン グ・オフィサー(CMO)に就任。2017年より同社、専務執行役員。★本学出身者

第3回

 $6/27(\pm)$

10:40-12:10

鉄鋼業のグローバル化・ 成長戦略

新興国の経済成長を背景に世界の鉄鋼需要が拡大す る一方、中国・アセアンでの能力増強が進んでおり、鉄 鋼業のグローバル競争は激しさを増している。こうした 中、温暖化対策など地球環境に対する社会的要請の高 まりを背景として、産業界の潮流が極めて大きく変化して おり、日本の鉄鋼業がこうした変化に柔軟に対応して国 際社会に貢献するとともに、自らもグローバル競争を勝ち 抜くための戦略とそれを支える人材のあり方を考える。

日本製鉄(株) 松岡 弘明 常務執行役員 大阪支社長

プロフィール:1985年、新日本製銭(株)(現日本製鉄(株))に入社。初配属は 本社熱延コイル輸出。その後、本社および製鉄所で総務・人事畑を長く経験し たのち、2014年から棒線営業部長・事業部長として5年間棒線品種を担当、 スウェーデンの特殊鋼メーカーの買収や山陽特殊製鋼㈱との3社連携の検討 などに参画。2019年4月より現職。大阪府出身。

13:20-14:50

日本外交の現状と課題

中国が台頭し、米国やヨーロッパの政治が大きく変 動する中で、我が国の外交が直面する課題について 紹介する。

山田 重夫 総合外交政策局長 プロフィール:1986年外務省入省、北米局日米安全保障条約課日米地位協定室

長、総合外交政策局総務課主任外交政策調整官、アジア大洋州局南東アジア第 二課長、同局北東アジア課長、在中華人民共和国日本国大使館公使、在アメリカ 合衆国日本国大使館公使、大臣官房兼北米局参事官、内閣官房内閣審議官(国 家安全保障局)などを歴任し、2019年9月より現職。東京都出身。趣味:ランニング

15:10-16:40

世界の都市開発の最新動向 ーニューヨーク、ロンドン、東京、アジア-

21世記は都市の時代である。2050年には地球上の 人口の70%以上が都市に住む。都市圏人口1000万 人を超えるメガシティは30を超え、その大半がアジア

この都市の時代を牽引する、ニューヨーク、ロンドン、 東京、そして、新たに拡張するアジアの都市の最新動 向を捉えることで、今後の都市の未来を展望する。

(株)日建設計 執行役員 奥森 清喜 都市開発グループ プリンシパル

プロフィール:1992年、日建設計に入社。以来、国内外の都市マスタープ ラン、都市開発プロジェクトを数多く経験。東京駅 (グランルーフ)、渋谷駅、 新宿駅、品川駅などに代表される駅まち一体型開発(Transit Oriented Development:TOD) に携わり、中国、ロシアなど多くの海外TODプロジェクト を担当

$7/4(\pm)$ 第4回

10:40-12:10

モビリティ革命と MaaS(マース)

モビリティ革命の本命と言われる「MaaS: Mobility as a Service (マース)」。様々な移動手段を一つに 統合、スマホーつでルート探索から予約、決済までが 行え、「移動の所有から利用へ」をパッケージとして 商品化した、究極の交通サービスがMaaSです。 本講義では、移動革命の最新動向やMaaSが私た ちの都市やライフスタイルにどのようなインパクトを

与えるのか、必要となる基礎を学んでいただきます。

一般財団法人計量計画研究所 牧村 和彦 理事 兼 研究本部企画戦略部長

-ル:1990年 (一財) 計量計画研究所 (IBS) 入所。東京大学 博士 (工学)。愛知県出身。都市・交通のシンクタンクに従事、将来のモビリティビ ジョンを描くモビリティ・デザイナー。代表的な著書に、「MaaS ~モビリティ革 命の先にある全産業のゲームチェンジ(日経BP) |、「バスがまちを変えていく~ BRTの導入計画作法(IBS出版)」等多数。

13:20-14:50

グローバル経済が 直面する課題

トランプ大統領の「米国第一主義」や英国のEU離脱に 象徴されるように、グローバル経済は大きな試練に直面 している。最近のニュース事例を読み解きながら、グロー バル経済の課題と、その解決策を考えるきっかけを提 供したい。また日本の経済政権の現状も踏まえながら、 激動の世界経済の中で、日本がどのような役割を果た していけばいいのかについても考察する。国内外に広く ニュースを発信する共同通信の報道活動にも触れたい。

共同诵信社 経理局長

岡部 央 レ:北大卒業後、1983年に共同通信社に入社し、記者として主に財 政、金融、通商などを担当。1997年から3年間は、ワシントン特派員として日米 貿易摩擦やアジア金融危機などを取材した。経済部長、総務局次長兼人事労 務部長、編集局次長、大阪支社長などを経て、18年6月から現職。日本経済の

現状を対外発信する雑誌の編集にも携わった。京都市出身。

15:10-16:40

組織における ダイバーシティと人財活用

社会・経済のグローバル化、多様化が進展するなか、企 業や社会においても人財の多様性を尊重する「ダイバー シティ」の重要性はますます高まっている。当講義では組 織におけるダイバーシティマネジメント、即ち構成員の多 様な属性と個性の組織内への取込み、活用につき、その 歴史的発展過程及び現状、課題について解説する。ま た、国内外の先進的事例を交えながらダイバーシティマ ネジメントの効用を明らかにし、将来像を展望する。

(株)日本政策投資銀行 原田 文代 企業金融第5部 担当部長

プロフィール:地域開発プロジェクトや発展途上国等への技術支援、海外企業の 対日投資、日本企業の対外インフラ投資等を担当した後、世界銀行グループ国際 金融公社にて東アジアのインフラ整備に従事。DBJシンガポール副社長、国際 統括部長兼女性起業サポートセンター長を経て、2017年6月より現職。再生エネ ルギー、海外のエネルギー投融資とともに、DBJのアジアビジネス戦略を担当。

第5回

 $7/11(\pm)$

10:40-12:10

アントレプレナーシップに ついて考える

近年はベンチャー企業への就職なども増加し、ベン チャーというキャリアも一般化している。日本経済発展 の観点からも、社会からのベンチャー企業への期待 が高まっている。この講義ではベンチャー企業を創業 した当事者が、その創業、成長のストーリーを中心に、 アントレプレナーシップ (起業家精神) について講義す る。アントレプレナーシップは起業することだけにあら ず、今後社会で活躍するために必須の精神である。

(株)ペイフォワード 代表取締役

プロフィール:1996年神戸大学経営学部卒。1996年日本電信電話(株)入社。1997年から会社経営に身を置き、1社を楽天(株)に、1社を上場の上、ヤ フー(株)に売却。会社の設立から買収、売却、海外企業との業務提携、株式上 場、TOBなど、ほぼ全てのコーポレートアクションを経験。2016年(株)ペイフォ

ワードを設立。2017年よりセミリタイアし2年間海外を放浪。★本学出身者

13:20-14:50

企業経営とSDGs

経営者は、何を目指して企業を経営すべきなのでしょう か。現代の企業経営者や我々が学んだ資本主義は、 人々に富と幸せをもたらす幸福の連鎖の構図ではな かったか。ところが、我々がニュースで目にするものは、 貧困、飢餓、格差、自然災害等、その結果の国家の対 立等。企業経営者が、短期的な経営指標にばかり気 を取られず、SDGsの指標を軸にすれば、世界は変わ らないか。皆さんと一緒に考えたいと思っています。

M&Company(株)

前川 直和 代表取締役社長

プロフィール:1987年日本生命保険相互会社入社。主計部、国際業務部を経てニューヨーク勤務。日本生命の国際戦略を立案、執行。その後外資系コンサ ルティング業界において、金融機関の戦略策定、執行を支援。2015年10月に ベンチャー企業支援事業、政府政策課題執行支援事業等を行うM&Company (株)を設立し、現在に至る。大阪府出身。★本学出身者

15:10-16:40

社会人としての学びと仕事の心構え、 そして今後求められるグローバル人材像

先ずは、損害保険業界で培った、社会人としての学びと 仕事の心構えについて簡単に振り返って披露します。そ して、保険事業を通じて、世界中のお客様に"あんしん" をお届けしている東京海上グループの海外展開を事例 として用いながら、企業がグローバル展開することの戦 略的意義や、ビジョン共有の重要性等について平易に 解説します。また、今後のグローバル人材に求められる 素養について具体的にお伝えしていきます。

東京海上日動ファシリティーズ(株) 倉谷 宏樹 代表取締役社長

ブロフィール:1956年1月奈良県出身。1978年3月神戸大学工学部システム(現・情報知能)工学科卒業。同年4月東京海上火災保険(株)(当時)入社。主に営業 畑を歩み、2006年7月営業開発部長、2009年6月~営業担当役員(常務、専務) 等を経て、2016年4月同社代表取締役副社長。2017年4月から現職。趣味: 音楽 鑑賞、スポーツ観戦。モットー: 『明るく 元気良く 張り切って!!』 ★本学出身者

第6回

 $7/18(\pm)$

谷井 等

13:20-14:50

JAPIC 専務理事·事務局長 丸川 裕之

プロフィール:1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鐵(現 日本製鉄(株))入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広 報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC 入社。水連続講義を主管、趣味は全国の建築物 (主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。

15:10-16:40

連続講義を受講した聴講者一人ひとりが、グローバル化をどのように捉え、どのよ うな努力を今後していくべきか、また10年から20年後の将来(社会、自分)はどう なっているか、全員と具体的にディスカッションしていく。このことを通じて、自身の グローバル人材の在り方を再確認して貰いたい。

神戸大学 産官学連携本部・准教授 西原 圭志

プロフィール:工学博士取得後、山口大学 地域共同研究開発センター 助手。2000年 九州大学 先端科学技術共同研究 センター 助手。2004年 長崎大学 知的財産本部 助教授、同 知的財産部長。2007年から現職。学生時代はハンドボー ル部。最近の趣味は、読書、旅行、露天風呂巡り

社会基礎学 推薦文

【過去の受講生より】

国際人間科学部 1回生

01

この講義を受けて良かったと思う点は、様々な分野でご活躍されている講師の方のお話を聞く中で、自分の考え方の幅を広げることができた点です。それぞれの分野に関する新たな知識を得られるだけでなく、沢山の経験を積まれている講師の方のお話は自分の将来や社会について深く考えるきっかけとなりました。現代はグローバル化が進んでおり、世界とどのように関わるべきかを一人一人が考える必要があります。そのため、グローバルに生きるとはどういうことなのか、自分はどう生きるべきなのかについて、この講義を通して考えることができてとても良かったと感じます。

医学部保健学科 1回生

02

世界で急速にグローバル化が進んでいます。そんな中、グローバル化の最先端を進んでいらっしゃる講師の方々からお話を聴けるのはとても貴重な機会であり、そこがこの講義の最大の魅力だと思います。なかなかほかの講義では聞くことの出来ない分野のお話が数多くあります。また、12回の講義でそれぞれ他分野の話を聞くことができるため、比較をして多角的なものの見方をすることが出来ました。今まさに世界や日本で起こっている問題の事をしっかり理解することが出来るのでこれからの医療従事者として、常識として知っておくべきことがたくさんこの講義には沢山詰まっています。

農学部 1回生

03

この授業では、普段関わることの無い色々な分野の第一人者のお話を聞くことができます。私たち学生目線ではなく、今社会で生きている先輩方の目線で、これから求められる人材の姿であったり、考え方であったりを知り、新たな視点を得ることができます。また、これまで生きてきた人生経験や、そこから得られた考えというのは、将来を考える上で大きな材料となりました。自分の専門とは大きく離れた分野のお話でしたが、今社会でおきていることや、必要とされている能力を、現場にいる方々から聞くのは、本当によい経験になります。専門分野とは離れているからこそ、受けて欲しい講座だと思います。

文学部 1回生

04

「グローバル化が急速に進んでいると言われるが、実態はどうなのか知りたい。」、「講義ごとに講師の先生方の専門分野が異なるので、多様な角度から話を聞くことができそう。」という2つの理由から、私は社会基礎学の受講を決めました。実際の講義は想像以上に1コマ1コマの内容が濃く、毎時間何らかの新しい学びを得ることができました。金融や経済、軍縮、エネルギー革命など、通常の講義で私が触れる機会がほとんどないテーマもありましたが、これらのものから生まれている恩恵や社会問題は身近なところに隠れていて、自分と深い関係があるのだということを実感する良い経験になりました。また、普段関わることの少ない他学部の学生の意見は、私が今まで考えたこともなかったような切り口のものが多く、とても刺激的でした。自分の教養の幅を広げたい人、将来やりたいことを見つけるために様々な世界を知りたい人はもちろん、少しでも興味を持った人はぜひこの講義を受けることをおすすめします。

経済学部 1回生

05

社会基礎学は過酷です。コマ数は多いし、むずかしい話も多々あります。その上テストもかなりハードです。しかしながら、社会基礎学が定員オーバーになるほどの人気講義であるのには訳があります。まず何より社会の第一線で活躍する方々のお話を聞くことができる滅多にないチャンスである点です。社会が今どのような課題を抱え、人々はどのようなアプローチで解決しようとしているのか・・・現場の声を直に聞くことができます。また、多種多様な業界の方々が集まるのも魅力の一つです。文系・理系を問わず、多様な社会問題を学ぶことはみなさんの今後の進路にも影響を与えうる大きなきっかけとなるでしょう。もし単に教養を身に付けたいだけならこの講義は必ずしも必要ではありません。むしろ何か新しい観点から物事を考えてみたり、自分の考えをその道のプロにぶつけてみたりしたい方にとってぴったりの授業であると私は思います。新しい知識や考え方を手に入れるのに貪欲なみなさんに社会基礎学をおすすめします。

06

法学部 1回生 09

私は社会基礎学の授業を通じて、自分自身の視野を広げるきっかけを掴むことができたと感じています。全ての講義のテーマがグローバル化に貫かれながらも、多様な視点からお話頂いたことで、一口にグローバル化と言っても様々な切り口があり、恩恵だけでなく課題もあるのだと学ぶことができました。このことにより私は、物事を多面的に見ることの大切さを実感し、自分が以前まで全く知らなかった分野について自分からより深く学ぶきっかけを得られました。また、質疑応答の際に周りの学生の鋭い指摘や深い洞察に刺激を受けたことや、文系理系関係無く学ぶことの重要性を再確認できたことで、他の授業へのモチベーションを上げることもできました。自分の中で興味のあることがはっきりしていない人には興味を持つきっかけを、特定の物事に既に関心を持っている人には新たな視点を、与えてくれる講座だと思います。

この講義の存在を知ったとき、様々な分野で活躍されている方々から話を聞けることで自分の視野を広げられるチャンスなのではないかと思い、履修を決めました。授業を受ける中で、今までの自分にはなかった考え方や価値観を持った方々からのレクチャーは私の心に強く残りました。少し難しいと感じる話もありましたが、普段の生活ではほとんど考えたことのないトピックが取り上げられて新鮮に感じることもありました。個人的なことではありますが、この講義の中で「世界は日本の大ファンです」という言葉に強く感銘を受けたので、自分の目で確かめるべく来年に留学することを考えています。自分の将来の幅を広げられるチャンスがこの講義にはたくさんあります。様々な分野の最前線で活躍されている素晴らしい方々から話を聞ける機会はめったにないことだと思うのでぜひ多くの方に受講していただきたいと思います。

理学部 1回生

07

私は理系だから社会を知らないを言い訳にしたくなくてこの講義を受講することにしました。講義を受ける際に意識していたのは如何に先生方のお話が自分がこれから学ぶ専門分野と結びつくかということです。結果として驚くべきことに、全てが結びつきました。自身が学ぶことを様々な切り口から見つめることで新たな発見もありましたし、グローバル化と言われ、複雑化している社会とどのように関わっているのかを知ることができたのです。あなたがこれから勉強していくことがどのように社会に寄与するか知りたくはありませんか?この授業は社会の繋がりを考え、知ることができる良いきっかけとなります。理系だからこそ社会の繋がりを意識して欲しい。この講義を通して自身の将来と社会の関わりを考えて見て下さい。

工学部 1回生

10

私は、面白そうだと思う講義が1つあったのでこの授業を受けることにしました。しかし、実際に様々な講義を受けると今まで興味の無かった分野の話もとても面白くて新たな発見がありました。自分が所属する学部や学科学ぶこととは違う内容で、しかも非常に密度の濃いお話を聞くことができるという機会はなかなか無いと思います。土曜日に大学へ授業を受けに行くことを煩わしく感じてしまうこともありましたが、毎週受け終わった後は自分の世界が広がって少し成長できたような気持ちになりました。講師の方々は各界で活躍していてお忙しいようでしたが、分かりやすいパワーポイントを使って、難しい話題も初歩的なところから話してくださいました。また、受講している学生は学ぶことに対する意識をしっかり持った人が多く、質疑応答では時間内に収まらないほど多くの質問が出て、とても刺激的な空間でした。

医学部医学科 1回生

08

今日、医療の世界においてもグローバル化がますます進んでいく時代になっており、その中で日本は高度な医療技術を有するにも関わらず、その流れに乗り遅れていると言われています。私が医学部を志望した理由が、日本の医療の国際標準化に貢献したいからであったこともあり、この講義を受講することにしました。講義では、様々な方面で活躍されている講師の方々のお話を聞くことができ、大変良い機会でした。また、講義を一緒に受講した他学部の生徒の意見や学ぶ姿勢も新鮮で、良い影響を受けました。将来何になろうとするにせよ、多角的に物事を捉えられるようになることは重要なので、社会基礎学をおすすめします。

海事科学部 1回生

1 1

分野を超えた授業を受けられるのも、海事なら一回生のうちだけだと思ってこの講座を受講しました。それぞれの分野で活躍していらっしゃる方々の話を聞くことはもちろん、授業の後半の時間を利用して、気になったことを直接質問することもでき、その時間でより理解を深めることに繋がったり、他学部生からいい刺激を受けたりすることもできました。

講師の先生のお話は印象に残るものが多く、私はこの講義を通して、グローバル化が進む中で、自分たちがすべきことや進むべき方向を、つかむことができました。ほかの授業では体験できない面白さを、ぜひ味わってほしいです。